

領域：	パブリック		
テーマ：	財政学・地方財政論で考える		
担当者名：	金坂成通		
開講時期：	後期：金曜 4・5・6限	募集定員：	30名
内容：	はじめに、財政学と地方財政論の入門テキストを用い、基礎知識を得ます。その後、日本および世界で財政に関わる問題を見つけ、その問題の解決策をグループで考えてもらいます（単なる思いつきではなく、先行研究や公的な資料等を検索・収集し、それらを整理する作業になります）。ほぼ毎回、グループで発表もしてもらいます。また、財政に関わる現地調査を行う場合があります（要交通費）。調整がつけば地方公務員などによる特別講義も予定しています。		
到達目標：	グループで協働する楽しさや難しさを学ぶこと、財政学および地方財政論がどのような問題を対象とするのか、そして問題解決の方向性を学ぶことができるようになることを目標とします。		
講義方法：	財政学に関しては、赤井伸郎（2017）『実践 財政学--基礎・理論・政策を学ぶ』有斐閣。の内容にそって講義を行います（履修が少人数の場合、輪読形式で行う）。（第1章 政府の役割と財政、第2章 財政赤字とマクロ経済、第3章 政府間財政移転と地方財政、第4章 自治体運営（再編・競争）と財政、第5章 社会資本と公共事業、第6章 教育と政府の役割、第7章 少子高齢化と社会保障財政、第8章 労働と税金、第9章 暮らしと税金、第10章 経済のグローバル化と企業課税・金融課税）地方財政論に関しては「地方財政白書」等を用います。		
準備学習：	なし。		
成績評価：	個人の受講状況とグループワークの取り組み（過程・提出物）を総合的に評価します。グループワークへの参加と貢献がない学生は、講義時間に単に出席していても「不可」になります。		
欠席基準：	授業実施回数の3分の1（端数は切り捨て）以上を欠席した場合は、単位を修得することができません。		
講義構成：	第1回～第15回：財政学・地方財政論の講義（もしくは輪読）、グループワークと発表 財政に関わる現場への現地調査および地方公共団体の関係者（公務員など）による特別講義も予定しています。		
履修条件：	財政に関わる問題について学ぶ意欲があること。グループでの調査・作業に参加する意欲と意思があること。毎回出席できること（欠席はグループに迷惑となります）。		
推奨科目：	なし（関連する科目を自己判断で履修してください）。		
選考方法：	履修希望者が多い場合は、事務室と相談の上、MyKONANにてお知らせします。		
備考：	グループでの発表準備のため、グループメンバーと講義時間以外にも集まって作業することが必要になる場合があります。グループ作業に参加・貢献する意欲が無い場合は履修をおすすめしません。また、土日祝日等に現地調査がある場合、アルバイト・サークル活動を理由とした欠席は認めません。		
説明会：	なし。申し込みまでに 必ず 講義テキスト（赤井伸郎（2017）『実践 財政学--基礎・理論・政策を学ぶ』有斐閣）を参照し、どのような内容を学ぶのか確認した上で申し込みしてください。		